

因果の事象に迫る

Addressing Causal Links

人文科学研究院／人間環境学研究院／法学研究院／経済学研究院
九州大学人社系協働研究・教育コモンズ第32弾企画

多くの科学的な発見は、複数の事象が連動する関係（相関関係）の裏に、原因と結果の関係（因果関係）を見出すことによってなされてきました。例えばワクチンによる感染症予防は、18世紀末に医学者のエドワード・ジェンナーが、「牛痘への感染」と「天然痘への感染」という事象間の相関の背後に因果を見出したことに端を発します。しかし、相関は必ずしも因果を意味するとは限りません。コロナ禍が始まって間もない頃、BCGワクチンが普及している国ほど死亡率が低いことが注目を集めました。その背後に直接的な因果関係は確認されませんでした。

相関の裏にある因果が明らかでないとき、私たちにできることは何でしょうか。例えば経済学や統計学の分野では、変数間の相関の背後にある因果を明らかにするための統計的手法が開発されてきました。そのような手法は「因果推論」と呼ばれ、経済学分野における実証分析の主流になっています。

因果推論を行う際には、何か特別な状況や特別な変数といった「手がかり」が必要になります。そのような手がかりを得るためには、歴史上の出来事やその背景、言語や地理など、様々な事象に関する分野横断的な知識が役に立ちます。また、分野が違えば、そもそも因果の捉え方やアプローチも異なるかもしれません。そのような観点から、九州大学人社系協働研究・教育コモンズでは、様々な専門分野の研究者を登壇者に迎え、「事象の因果に迫る」というテーマでシンポジウムを開催することにいたしました。是非とも、皆さまの積極的な参加をお待ちしています。



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY



九州大学
人社系協働研究・教育
コモンズ

2025.3.18 火

15:00-18:00 参加費無料

会場参加 または オンライン(Zoom)

会場 九州大学伊都キャンパス E-C-203
福岡県福岡市西区元岡744

参加申込み 下記サイトより事前登録をお願いします。
https://commons.kyushu-u.ac.jp/collaborative/events/event_32.html



【共催】公益財団法人福岡アジア都市研究所、九州大学アジア・オセアニア研究教育機構

【後援】九州大学社会連携推進室 科学コミュニケーション推進グループ、九州大学法文学部創立100周年記念事業実施委員会

●司会・話題提供
菅史彦 九州大学 経済学研究院 准教授

●講演者
久保昌弘 クレルモン・オーベルニュ大学 (フランス)

●討論者
中川奈津子 九州大学 人文科学研究院 准教授
橋彌和秀 九州大学 人間環境学研究院 教授 (五十音順)

●スケジュール
15時00分～15時40分 開会挨拶・趣旨説明および話題提供
15時40分～16時40分 講演・久保昌弘
16時40分～16時50分 休憩
16時50分～17時30分 討論者からのコメント
17時30分～18時00分 総合討論

昔と今をつなぐ、
データが語る歴史の中の因果